

# 議事録

会議名	令和7年度第3回東海村地域福祉計画推進会議																																												
日 時	令和7年(2025年)12月17日(水) 午後5時30分～午後7時30分																																												
場 所	東海村役場 203会議室																																												
出席者 (順不同)	<p><b>【委員】(11人)</b></p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">村民代表</td> <td style="width: 30%;">松井 淳子</td> <td style="width: 40%;">第4次計画策定委員・子育て世代</td> </tr> <tr> <td>村民代表</td> <td>岡部 恵子</td> <td>第4次計画策定委員・ボラ連協</td> </tr> <tr> <td>村民代表</td> <td>澤井 咲希</td> <td>高校生</td> </tr> <tr> <td>村民代表</td> <td>渡部 のぞみ</td> <td>大学生</td> </tr> <tr> <td>民生委員・児童委員</td> <td>照沼 恵子</td> <td>民児協</td> </tr> <tr> <td>民生委員・児童委員</td> <td>飯島 真理子 (副委員長)</td> <td>民児協</td> </tr> <tr> <td>福祉関係者</td> <td>有坂 加奈子 (委員長)</td> <td>社会福祉法人はまぎくの会</td> </tr> <tr> <td>福祉関係者</td> <td>香取 義彦</td> <td>地区社協</td> </tr> <tr> <td>福祉関係者</td> <td>川上 有里</td> <td>社協</td> </tr> <tr> <td>福祉関係者</td> <td>仲田 瑞穂</td> <td>社協</td> </tr> </table> <p><b>【委員(欠席)】</b></p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">村民代表</td> <td style="width: 30%;">小泉 愛葉</td> <td style="width: 40%;">高校生</td> </tr> <tr> <td>村民代表</td> <td>川口 優羽</td> <td>大学生</td> </tr> </table> <p><b>【アドバイザー】</b></p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">淑徳大学教授</td> <td style="width: 70%;">稲垣 美加子</td> </tr> </table> <p><b>【事務局】</b></p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">福祉部地域福祉課</td> <td style="width: 70%;">古川 大内 小原澤 荒木 藤田</td> </tr> </table> <p><b>【委託業者】</b></p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">(株)環境総合研究所</td> <td style="width: 70%;">大谷 安島</td> </tr> </table>			村民代表	松井 淳子	第4次計画策定委員・子育て世代	村民代表	岡部 恵子	第4次計画策定委員・ボラ連協	村民代表	澤井 咲希	高校生	村民代表	渡部 のぞみ	大学生	民生委員・児童委員	照沼 恵子	民児協	民生委員・児童委員	飯島 真理子 (副委員長)	民児協	福祉関係者	有坂 加奈子 (委員長)	社会福祉法人はまぎくの会	福祉関係者	香取 義彦	地区社協	福祉関係者	川上 有里	社協	福祉関係者	仲田 瑞穂	社協	村民代表	小泉 愛葉	高校生	村民代表	川口 優羽	大学生	淑徳大学教授	稲垣 美加子	福祉部地域福祉課	古川 大内 小原澤 荒木 藤田	(株)環境総合研究所	大谷 安島
村民代表	松井 淳子	第4次計画策定委員・子育て世代																																											
村民代表	岡部 恵子	第4次計画策定委員・ボラ連協																																											
村民代表	澤井 咲希	高校生																																											
村民代表	渡部 のぞみ	大学生																																											
民生委員・児童委員	照沼 恵子	民児協																																											
民生委員・児童委員	飯島 真理子 (副委員長)	民児協																																											
福祉関係者	有坂 加奈子 (委員長)	社会福祉法人はまぎくの会																																											
福祉関係者	香取 義彦	地区社協																																											
福祉関係者	川上 有里	社協																																											
福祉関係者	仲田 瑞穂	社協																																											
村民代表	小泉 愛葉	高校生																																											
村民代表	川口 優羽	大学生																																											
淑徳大学教授	稲垣 美加子																																												
福祉部地域福祉課	古川 大内 小原澤 荒木 藤田																																												
(株)環境総合研究所	大谷 安島																																												

## 内 容

### 1. 開会

### 2. 事務局あいさつ（古川地域福祉課長）

### 3. アドバイザーごあいさつ（淑徳大学教授 稲垣美加子先生）

### 4. 議事

#### （1）第5次地域福祉計画（素案）について （事務局）

##### － 基本理念、基本目標、施策の方向性を中心に説明 －

本計画は、昨年度からの推進会議やグループワークを通じて、委員の皆様からいただいたキーワードや意見をもとに作成しています。第4次計画からのスリム化を図り、東海村らしさを盛り込み、住民全体で現実的な計画とすることを基本方針として進めてきました。

##### ① 基本理念

基本理念（案）として、「分かり合い・支え合い・共に生きる こちよいムラ」を提示しました。これまでのグループワークで出された「理解」「助け合い」「多世代のつながり」などの意見を踏まえて整理したものであり、今後さらに意見をいただきながら検討していきます。

##### ② 基本目標

第5次計画では、以下の3つの基本目標を設定しています。

1. 地域福祉の仲間を広げる
2. 誰もがつながる地域をつくる
3. すべての人の暮らしと権利を守る

いずれも第4次計画から整理・集約したものであり、それぞれ人づくり、地域づくり（災害対応を含む）、権利擁護をテーマとしています。

##### ③ 施策の方向性

基本理念・基本目標を実現するため、

- ・地域福祉の考え方を分かりやすく伝え、参加しやすいきっかけをつくる
- ・挨拶や交流を通じたつながりづくり
- ・相談しやすい支援体制の構築

などの施策の方向性（案）を作成いたしました。これらは確定したのではなく、今後の意見を踏まえて修正していきます。

## 内 容

### (2) グループワーク

#### (事務局)

まず、配布資料やこれまでの議事録を振り返りながら、基本理念・基本目標・施策の方向性について意見を整理する時間を設けます。その後、グループでの意見交換および共有を行っていただければと思います。また、提示している案にとらわれず、修正点や新たな視点も含め、活発な議論をお願いいたします。

#### (Bグループ：澤井委員)

基本理念については、「わかりあい 支え合い ともに生きる 心地よいムラ」という表現が親しみやすく、良いと感じました。分かり合い、支え合うことで、結果として共に生きることにつながるという流れも分かりやすいと思います。一方で、「思い合う」という言葉については、人によって受け取り方や表現が異なるのではないかと感じました。

#### (Bグループ：副委員長)

「ムラ」がひらがなではなくカタカナになっている点について、最初は疑問に思いましたが、説明を聞いてカタカナで統一しているという理由が分かり、納得しました。全体として、「分かり合い、支え合い、共に生きる」という韻を踏んだような流れがとても良く、語感もいいと感じました。これ以上長くなると分かりにくくなってしまうので、長さとしてもちょうどよいと思います。

#### (Bグループ：岡部委員)

基本目標1の「地域福祉の仲間を広げる」の中にある「一期一会から始まる担い手の輪」については、「一期一会」という言葉は高校生でも知っているという話がありましたが、基本目標2・3が比較的柔らかい表現であることを踏まえると、「一期一会」よりも「出会いから始まる」など、もう少し柔らかい表現の方が良いのではないかと意見が出ました。

基本目標2の「できなそうをできるにする地域力」については、前回の会議で出た言葉を活かしたもので、今の子どもたちが使う「無理」「できない」といった感覚に寄り添いながら、「できなそうをできるにする」という表現が柔らかくて良いという意見があり、この言葉を使いたいという話になりました。基本目標3については、「みんな守られ、みんな幸せになれる村」という表現の「幸せ」という言葉について、現在は幸せの価値観が多様化しているため、少し表現を柔らかくして、「みんな笑顔になれる村」などの方が前後の流れともつながりやすいのではないかと、意見が出ました。

#### (Bグループ：香取委員)

まず、基本目標1の「一期一会から始まる担い手の輪」についてですが、若い世代と高齢世代を考えたときに、高齢者は自分のことは分かるものの、若い世代が何を求めているのか、どう関わればいいのか分からないという現状があります。

そのため、世代を超えたコミュニケーションの場をつくる施策として、この「一期一会から始まる」という考え方は有効ではないかと思いました。グループ内でも、この

内 容

方向性自体を否定する意見はなく、「これで良い」という判断になりました。世代間交流の場を、この施策の中に組み込んでもらえると良いと感じています。次に、基本目標2の「誰もがつながる地域をつくる」についてですが、地域づくりは地域だけでも、行政だけでも成り立ちません。地区社会福祉協議会と地区自治会、また行政内では例えば福祉部と村民活動部など、既存の組織同士が連携することで、新しい活動が生まれる可能性があると思います。「できなそうをできるにする」という考え方は、こうした連携を具体的に進めていくことで実現につながるのではないかと感じました。基本目標3の権利擁護については、現行案でよいのではないかとこの意見です。

(Aグループ：渡部委員)

基本理念については、私たちのグループも他のグループと同様の意見でした。

「わかり合い」「支え合い」をひらがなにすることで、全体的に柔らかい印象になるのではないかと感じました。また、「共に生きる」を「共に作る」にすると、全員が主体となって参加するイメージがより伝わるのではないかとこの意見がありました。あわせて、「ムラ」がカタカナ表記である理由について、コラムなどで説明があると分かりやすいのではないかとこの話も出ました。

(Aグループ：松井委員)

基本目標1の「一期一会から始まる担い手の輪」については、活動に参加するまでの最初の一步が難しいと感じる人も多いため、「やってみよう」と思えるような前向きなイメージが伝わる言葉があると良いという意見が出ました。そのため、「初めの一步から始まる担い手の輪」といった表現も案として挙がりました。基本目標2の「できなそうをできるにする地域力」については、意味はそのままに、別の言葉に言い換えても良いのではないかとこの意見がありました。また、説明文の最後にある「地域のつながりをつなぐ」という表現については、「地域のつながりを深めます」の方が分かりやすいのではないかとこの意見が出ました。基本目標3では、「女性・男性・子ども・若者」と区切って表現している点について、ジェンダーの観点から見直しが必要ではないかとこの意見がありました。さらに、3つの基本目標すべてで文末表現を「広げる」「つくる」「守る」と統一している点について、「広げよう」「つくろう」といった呼びかけの形にしてもよいのではないかと、ただし「守る」はそのままでもよいのではないかと、この話が出ました。

(Aグループ：照沼委員)

施策の方向性について、1番目については、「楽しさ」「身近さ」「やりがい」といった要素を盛り込むとよいのではないかとこの意見がありました。地域福祉は大変なものだけではなく、楽しく、身近で、やりがいのあるものだというメッセージが伝わる表現が必要だと感じました。2番目については、分野を超えたつながりという表現が少し分かりにくいいため、見直してもよいのではないかとこの意見がありました。また、「居場所づくり」という視点を入れ、特定の一か所ではなく、世代や特性の異なる人たちが集える複数の居場所が村の中にあると、参加しやすくなるのではないかとこの話になりました。3番目の権利擁護については、声を上げにくい人たちの存在にもっと目を向ける必要があるという意見が出ました。

## 内 容

子どもや女性などを分けて考えるのではなく、住民全体を対象とした視点で取り組んでいく方向性が望ましいのではないかという話になりました。全体として、受け身ではなく、住民主体で能動的に関われる計画になるとよいという意見でまとまりました。

(その他グループワーク内での意見)

### 基本理念

- ・ 合い→あい
- ・ 「ムラ」にした理由を説明・コラムに記す
- ・ ともに生きる→ともにつくる
- ・ 生きる or つくる
- ・ わかり合い→わかりあい

### 基本目標

- ・ 一期一会→はじめの一步
- ・ 目標全体で「～しよう」「つくろう」といったみんなで参加するイメージにする。
- ・ 基本目標2の説明文「確かなものとします」→「深めます」
- ・ 基本目標3の女性・男性の記載について

### 施策の方向性

- ・ きっかけややりがいを感じる。難しいけど面白い
- ・ 地域福祉の考え方（楽しさ、身近、やりがい）
- ・ 基本目標2の施策の方向性2つ目について、「分野をこえた」→「世代を越えた」
- ・ 共生の場→（居場所、集いの場、多様な居場所）
- ・ 「子どもや～障がい者」→住民みんなが対象
- ・ 声をあげられない人への配慮、目を向ける取組み
- ・ 権利についても情報発信
- ・ 行政や関係者、住民が協力して取り組む。

(委員長)

それでは皆様、本当にグループワークお疲れ様でした。グループ内で第5次地域福祉計画の重要なポイントにつきまして色々な言葉が出たかと思います。それぞれ住民として、委員の皆様が出していただいたこともぜひ取り入れていただきたいと思います。本日のグループワークを踏まえて、稲垣先生の方からコメントをいただければと思いますので、よろしく願いいたします。

(アドバイザー)

両グループの意見を伺いながら、東海村らしい地域の姿が少しずつ見えてきたと感じました。東海村には、昔から住んでいる方、企業の進出をきっかけに移り住んできた方、さらに近年増えている若い世代など、背景の異なる人たちが共に暮らしていますが、それら異なる人のコラボの中から新しいものを作り出せたらいいよねということ

## 内 容

になってきたと思います。少子高齢社会や孤独死などが起き、アフターコロナでは人と人がつながりにくくなり、今まで気楽だと思っていたことが実は不安なことだと皆が気づき始めていますので、今回の第5次地域福祉計画は、そうした気づきを踏まえ、「どうつながっていくか」を前向きに考えるクリエイティブな計画になっていくと思います。

言葉について丁寧な議論が行われました。「わかり合う」でも「分かり」「解かり」「判り」があり、「思う」「想う」もあります。皆さんの感覚で選んでいただければよいと思います。

ボランティア活動には4原則があり、そのひとつに「主体性」があります。皆さんのなかから「～しよう」という言葉がでてきましたが、まさに本質です。さらに、「無理は続かない」「楽しいこと、面白いことから始めたい」といった意見が共通して出ていた点も印象に残っています。行政への依存が強かった20年前から変わりました。できることを、できる人が、無理なく関わることが、東海村らしい地域福祉につながっていくのだと思います。

今回はとても実りある議論ができたと思います。

### (3) 第4次地域福祉計画住民評価について (事務局)

#### — 第4次地域福祉計画の進行管理について説明 —

今までの評価は、少しボリュームがある内容になっているので、実際に経験された方にとっては、正直なところ、かなり難しかった部分もあったのではないかと思います。そこで今回の住民評価では、2点変更したいと考えています。

1点目は、これまでの3年間については中間評価として一度区切りをつけていただいていますので、今回は残りの令和6年と7年の2年間について評価いただくということ、2点目は、これまでの施策の方向性に対する評価から、更に上位の基本目標について評価いただくということです。おそらく年明けになってしまうかと思いますが、書類については改めてお送りさせていただきます。また、新しく参加された方については、必要に応じて「こういう形で進めています」といった点を、もし可能であればお時間をいただいてフォローできればと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

### (4) その他 (事務局)

本日いただいたご意見やさまざまなコメント、また、議論の中で共有された皆さまのお考えや思いについても、可能な限り拾い上げながら、形にできるよう工夫し、見せ方についても検討してまいります。改めてお示しできる状況になりましたら、できるだけ早めに皆さまに共有させていただきたいと思います。その上で、修正すべき点につきましては、時間の許す限り対応してまいりますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

本日はどうもありがとうございました。お疲れさまでした

